４月学習会のご案内

平成２５年４月４日

4月！気持ち新たにがんばりましょう！

新しく事務局担当となりました小出　真規（こいで　まさき）と申します。

６年間勤め上げられた小野先生の後任ということで，責任の重さをひしひしと感じているところです。昨年度，附属小学校に転任してきて，この語る会に数年ぶりにメンバーに入れていただき１年を過ごしました。休んでいる間ももちろん国語の授業づくりはがんばってきたつもりですが，やはり自分を成長させていくには，いろいろな先生方との交流が大切なのだと気付かされた１年間でした。共に学ぶことで，一人では気付けなかったことにも思い及ぶようになる･･･子どもにも言えることなのでしょうね。

ということで，区切りの４月の会です。今回は，年度初めということで，顔合わせの時間をとる予定です。ぜひ，大勢の先生方のご参加をお待ちしています。また，鳥越先生に，昨年度後半に学習会で取り上げた「天気を予想する」の授業構想を発表してもらいます。みなさんと一緒にいいスタートが切れることを楽しみにしています。

日　時　　平成２５年４月２０日（土）９：３０～１２：００
場　所　　岡山大学教育学部附属小学校　２階　会議室
　　TEL(086)272-0511　　FAX(086)271-3455
連絡先　　小出　真規（こいで　まさき）TEL090-5704-7339
　　m-koide@okayama-u.ac.jp（学校パソコン）
内　容　　①　顔合わせの会をします。
　　②「天気を予想する」（５年　光村図書）授業構想
　　発表者　鳥越　保行先生（倉敷市立箭田小学校）

＜お知らせ＞

※「おもしろ見つけ」の本を，附属小でお取り扱いしております！来られ前に冊数をご連絡ください。代金引換となります。（特価！）多くの方に手にとっていただけるように，みなさん！宣伝活動をがんばりましょう！

※　今年度の**年会費2，000円**を集めます！！ご用意ください！！
　４月に来られない方は今年度来られた最初の会でおわたしください！！
　（やめられる場合も一声かけてくださるとありがたいです。）

※　異動情報をお待ちしております。特にこの封筒が前の勤務先に届いておられる先生は何らかの方法でご連絡ください。訂正してお届けいたします。

※　駐車場は北門（幼稚園）からの入場になります。

※　校舎扉前には案内の黒板が出ています。ご確認の上，中にお入りください。
　（扉が閉まっていましたら，上記の小出の携帯電話に連絡をください！）

3月の学習会の報告

（文責　近藤昌子）

３月の語る会は，「ウナギのなぞを追って」（光村図書４年）の指導案をもとに二次２時の授業について話し合いました。

田中先生より

〇次の新しい中学校教科書編集について

２４年度に新教科書になったばかりだが，次の教科書作成は差し迫っている。

教材が既に決まっていないと間に合わない状況。

全国で使用されることが前提。学習指導要領に沿うもの。

→してはいけないことは書かれているがこうあるべきことは書かれていない。

→編集長・編集委員の意向が教材選択・構成・手引き・つくりに表れる。例えば，全文に見える教材にしたとき量を確保すると見開きでは入らない。観音開きにすると，裏はどうするかなど検討中。教科書作りのおもしろさを感じる。

〇「読む力が育つおもしろ見つけ」を送付した方からの返信の紹介

田近先生より

「・・・「おもしろ見つけ」の学習活動の読みの開発は大事な実践研究。「印象点を結節点とする焦点化の読み」とも理論的に同じ立場に立つものであり，うれしく思う。巻頭論文にも共感。岡山の皆様の取り組みは充実したものばかり。よろしくお伝えください。・・・」

小川先生より

〇田近先生の返信より

理論編の中にずいぶん引用が入っている。考えが重なっているところも多い。

〇メモの教材

教科書の中にずいぶん取り入れられている。

この会の始まりはメモの指導内容の位置づけと実践

…始まりは田中先生，赤木先生を含めて五人ほどの会

この会が２００回を迎えようとしている。教科書にも取り入れられるようになった。

継続のすばらしさ。人数が少なくてもどう盛り上げていくかが大切。

〇日本教育新聞

「おもしろ見つけ」の本の紹介。全国区の本屋さんで少しずつ売れている。

田中先生より

〇返信について

足立悦男先生，田中博之先生のコメントで共通していたこと

「丸ごと読み」と「おもしろ見つけ」の二つがそろってまとまりましたね。

→「おもしろ見つけ」の広がりが，「丸ごと読み」から移っているが，組み合わせの発想があることで，それぞれが活きてくる。現場の取り組みに活かしていくのが課題。

〇メモに関する研究

国語教育学会の望月さん…基礎文献の一つとして紹介してもらった。

人数の問題より，何が子どもに必要かを考えれば，見る人はちゃんと見てくれている。地道な研究の大切さを外さないようにしたい。

小川先生より

〇語る会の事務局の委嘱

小野先生から小出先生へ

〇本日の話題について

・資料の指導案（御野小１０年研）

具体的な授業のあり方

〇単元目標　・調査のすばらしさ，事象と推論のつながりのよさについて価値目標

・「気付き反応」（すばらしさ）「つなぎ反応」（事象から推論）「変化反応」（塚本さんの着目の変化）といった反応を使って，推論の表現，事象の表現，図などを関連付けて読むのが能力目標

〇指導上の立場を書くときのポイント

＜本教材について＞

価値目標と能力目標の設定が教材から見えるように

＜児童の実態＞

児童から見て，この価値目標と能力目標の意味が見えてくる

→この二つから単元目標の意味が見えてくるように

＜本時について＞

本時に主張される指導法

〇指導の流れ

一次１時：題名，形式段落①②③と⑪を読んで直観をもつ

題名と①で子どもの反応・・・ウナギの一生の調査かな

②③で焦点化が図られる・・・ウナギの卵を産む場所の調査とその歩みだな

⑪・・・事象に疑問をもち解決する喜びにまでは気付きにくい

→大きなめあて「ウナギの卵を産む調査のすばらしいところを確かめよう」

二次１時：形式段落④⑤を読む

・子どもはすばらしさを多く見つける。

「より小さいウナギ」・・・着眼のすばらしさ

「目の細かい大きな網」・・・実際の調査のすばらしさ

「もっと先と考えられました」・・・推論のすばらしさ

→３通りのすばらしさ（気付き反応）

・体の形と推論をつなぐ

→つなぎ反応

二次２時：形式段落⑥を読む（本時）

（指導目標）既習事項である「気付き反応」や「つなぎ反応」などを使いながら，推論の表現や数字の表現に着目させ，しだいに産卵地に迫っていく塚本さんの調査を読むことができる。

（子どものめあて）

「すばらしいところ」「つながっているところ」などを見つけよう。

（内容面）　　（方法面）

→既習事項を使って，着眼点や推論などのすばらしさを子どもはよく見つけた。

（読み深め）

塚本さんの推論に納得できるかと発問し話し合わせることで，批判的に読むことができるようにする

→当然だと反応。納得したことをまとめる。

→全体を通して二次１時の既習事項の活用の手ごたえを感じた。

＜話し合いの流れ＞

どのようにすばらしいところが子どもたちに気付かされ，事象と推論を子どもがどうつなげていくか，批判的に読むところについて情報交換。

話し合いの結果

グループ1

〇辛抱強さ，根気強さの印象から
　年号を書き出すと，長い時間をかけて研究に取り組む喜びが感じられるのではないか。
　→一次１時で丸ごと読みをしてもよいのでは。
〇教材の段落わけについて
　④⑤⑥を一緒にすることで研究の展開が分かるのでは。⑦⑧⑨⑩は調査の飛躍が読めるのでは。
〇ラスト１０分
　「２０日分の距離」は知識がないので批判的に読みづらい。何をもって批判的に読むか。

グループ2

〇４年教科書に要点をまとめる学習
　→何を書いてよいか分からない子ども
　　「要約をしなさい」では要約の仕方を教えたことにならない。
　　直観することが要旨をとらえること。直観したことを確かめることが要旨につながる。
　→３年生に新聞を書いて教えてあげようという活動を組むことで，要旨を書かざるを得なくなる。
〇読み深め
　全員納得した→もし両方いたら？
　　何をつないだのか根拠の違いを挙げて，意見を交流させる。
〇段落相互の関係
　　体の形と海流をつなぐといった前の経験を使いながら，海流と年輪をつなぐなど段落相互の関係を学べる。事象と推論，結論，次の課題といった書きぶりから人間の生き方につながることも学べる。
〇「鮮やかな群青色の～」「青い海から白い網がゆらゆらと～」といった情景描写
　　丸ごと読みやおもしろ見つけを学習していると，情景描写が情熱につながることにも気付く。

グループ3

〇推論→結果　読み手としておもしろい。
〇時間を表す表現
　　１９７３年から１９９１年に着目すると，「しだいに小さくなっていきました」の１文に１８年もかけている粘り強さが読める。
〇読み深めについて
　　指導案では「着眼点，推論のすばらしさ」は読み深めの段階ですでに位置付いている。
　　→批判的に読むことでも，理由付けて確認できる。
　　→行動に目をむかせて時間に気付かせることで，推論と事実のすばらしさ，研究者のすばらしさがより深まるのではないか。

小川先生

〇描写表現，年数・千匹といった数字表現は大切だが，なぜ大切なのか指導者が分かっておく必要がある。
　強調表現に反応する子どもに育てていく。
〇図とつなぐ
　体の形と図２，大きさの変化を海流と図３をつなげて読むことも大切。
〇納得について
　理由が言えればよいと考えている。
　経験が積み上がると，理由の洗練が図られる。
　答えを出すのが目的ではなく，そのアプローチを文章に返していくことが大切。
〇知識
　説明文を読むときに重要。辞書をどのタイミングで引かせるか。
〇丸ごと読み

塚本さんの変化を読むには，丸ごと読み。推論の発展→変化→うなぎの謎を追い続ける塚本さん→最後の段落の意味が読める。丸ごと読みの実践も開発したいところ。

〇問いを軸にして読む

読むことの視点を読み手が意識しながら読む。（トップダウン）
内容を読みながら貫くものを見つける。（ボトムダウン）
問いに気付いて読むことの指導を今はやっている。

〇マーク

先生がつなぎ反応は線だと思っていたら，子どもは☆印を選ぶ。
一人読みの時，いつもハートマークにサイドラインにすると，作品の強調の意味が見えにくい。
ハートマークの中を塗るだけで違う。つなぎ反応と様子反応が出たときは中を塗るようにすると，子どもは塗ろうと思って，つなぎ反応や様子反応をどんどん見つけていった。
マークは使い方によっては，意図的に意欲を喚起し，つけたい学力へ向かわせることができる。

田中先生

〇この文章の目的

数字，年号，場所，地名…説明文では重要。
図３は数字を大事にすると，間違い。文章と整合性がない。
→ 探求していく過程の事実にあまり関心があると思えない＋情意的文章での始まり
→ ウナギの生態を調べること自体が分かってもこの文章を読んだことにならない。
ウナギの生態を調べることに情熱を燃やして取り組んでいる「わたしの情熱」を分かってもらう文章と考えられる。

〇この文章に設定する問い

「３０年以上もなぜ調査を続けているのか」という問い
「それは調査をすることで分かった喜びが大きいからだ」という答え
ではどこに大きな喜びが分かるのか？を見つけていく。（④～⑩段落）
→ 分かった数少ない事実から調査を進めて予想が当たった喜びの大きさが，情熱を読み取ることにつながる。
その情熱は，４年生がこの文章を読むだけでは簡単に伝わらない。
→ 時間がわかりにくい。「はずです」が確認されるまでに何年もかかって，島も何も見えないところで大きな網でも小さな網であるという中での調査をどれぐらい実感できるか。補わないと感覚は持ちにくい。

〇筆者を読む

高学年ぐらいとしてきたが，この文章では筆者を読まざるを得ない。
日本人でうなぎでなければ，こんなに費用と時間はかけない。ウナギの完全養殖への道のりの過程と考えられる。
謎を追い続ける情熱が，年月を越えて続けられる探求の過程に読み取られていく。